

第3章 「健康たかはま21」の推進

1 計画の推進

(1) 推進体制

21世紀の国民健康づくり運動である「健康日本21」には、1986年カナダのオタワ市で開催されたWHOの国際会議の精神である、ヘルスプロモーションの考え方が取り入れられています。ヘルスプロモーションとは、「健康を自分自身でコントロールできるように、住民一人ひとりの能力を高めること」、「そのために個々人の努力にだけゆだねるのではなく、健康を支援する種々の環境を整備(健康応援型環境づくり)していくこと」を二本柱として展開していく公衆衛生戦略です。これを受けて「健康たかはま21」では、以下の取り組みを推進します。



一人ひとりの健康管理の知識・行動力の向上

健康管理の知識を得て、生活習慣病などの発病を予防する「一次予防」を意識して暮します。

健康診査の目的を病気の早期発見とするだけでなく、生活習慣改善の第一歩として活用し、実践します。

健康応援型の環境づくり

健康情報提供体制の整備

行政及び健康関連団体等はあらゆる広報媒体を活用し、保有する健康関連情報を積極的に発信します。

指導者の養成及び育成

地域で活動する健康づくり推進委員、健康づくりリーダー会の健康づくり指

導者の養成と資質の向上を図ります。

仲間づくりの推進

各種健康教育や生涯学習講座などの機会を捉え、地域や職場における自主グループづくりを促進するとともに、健康情報の提供やグループの活動情報を市民に提供して参加の機会を図ります。また、ボランティア団体の紹介を行い、いきがいつくりを支援します。

地域活動の活発化

健康づくり推進委員、健康づくりリーダー会による「健康たかはま21」を取り入れた地区活動を展開します。

ボランティアセンターの充実により、ボランティア活動の増加が見込まれます。このことは、市民のいきいきとした生活を送る「いきがいつくり」につながります。

各種健康教育や生涯学習などを通じて自主グループによる健康の輪をひろげます。

施策の中に健康を重視した視点を取り込む

市民、行政、健康関連団体等が協働する健康づくりを推進します。

11分野に視点をおいた各種事業を展開します。

(2) 高浜市健康づくり推進委員の役割

本市では、市内の地域単位に委嘱した「健康づくり推進委員」(任期2年。毎年半数改選)による市民レベルでの健康づくり推進活動を昭和56年から展開しています。推進委員は、健康づくりに関する知識の修得を行いながら、担当地域において市民の健康増進と啓発活動の推進役として活躍しています。

平成5年度からは町内会制度が発足したので、町内会より推薦された18人を委嘱しています。

主な活動としては、地区文化祭に合わせた健康づくりのコーナーの開催、健康食の勉強会、高齢者との交流、健康体操、健康新聞の作成、ウォーキングなどを行っています。また、健康づくり推進委員は、任期終了後も健康づくりリーダー

として、会員相互の学習や地区活動に自主的に取り組んでいます。これらの活動は発表会で報告しています。

今後は、健康づくり推進委員、健康づくりリーダー会は少子高齢化・核家族化が進む中において、「健康たかはま21」の推進役となり、地域とのつながりを強化するとともに、他の団体とも連携して地域における活動を担います。

